



メモボックスのこれまでの道のり

1950年に時計史にその名を刻んで以来、このアイコンモデルを基に、数々のアラームを搭載したジャガー・ルクルト製の機械式時計が誕生してきました。1968年に登場したメモボックス・ポラリスは、新しく誕生したジャガー・ルクルト ポラリスコレクションの原型となっており、このコレクションでは先代モデルのデザインを受け継ぎながら、新たなデザインや機能が追加されました。

『メモボックスは呼びかけ、知らせ、呼び覚ます』。1950年、このキャッチフレーズは、当時ジャガー・ルクルトが発売を開始したばかりのメモボックスの長所を際立たせていました。第二次世界大戦後に訪れた経済再生の時代、“ボイス・オブ・メモリー”という意味を持つメモボックスは、アラーム機能によってビジネスマンたちがミーティングの時間を知らせるために開発されました。

非常にシンプルでクラシックなラインを描くこの機械式手巻時計は、アラーム機能进行操作するためのリューズが視線を引き付けます。ジャガー・ルクルトの拠点があるスイスのヴォー州当局が、1953年にチャーリー・チャップリンへの贈答品として選んだのがこの腕時計でした。

メモボックス・オートマティック

ジャガー・ルクルトは、1956年にアラーム機能を搭載した世界初の自動巻時計を開発し、メモボックスシリーズに華やかな彩りを添えました。以来、このモデルは数々のタイムピースのインスピレーションとなり、その長い血統は今も受け継がれています。

その開発から3年後、ジャガー・ルクルトは、このアラーム付き腕時計を新たな顧客層向けに展開しました。当初はビジネスマンのみをターゲットに誕生したモデルでしたが、ジャガー・ルクルトはこの自動巻ムーブメントを搭載した時計が、冒険家やあらゆる種目のスポーツ競技者にも愛用される可能性を見出したのです。1970年代、当時新たに製造されたコンコルドが写った広告には、「アクティブな男性の為のメモボックス」というダイナミックなスローガンを掲げていることから、その想いが感じ取れます。

メモボックス・ワールドタイム／メモボックス・パーキング

創業125周年を記念して、ジャガー・ルクルトから2つの新作モデルが発表されました。メモボックス・ワールドタイムは、世界中の時刻を一目で読み取ることができます。また、メモボックス・パーキングは、駐車時間を計測してパーキングメーターの制限時間を知らせてくれます。いずれも画期的なアイデアから誕生しました。

メモボックス・ディープシー

1959年、ジャガー・ルクルトは自動巻キャリバー815を搭載したメモボックス・ディープシーを発表しました。この時計はアラームを備えた世界初ダイバーズウォッチで、搭載されたアラームは、単なる目覚まし時計としての役割や重要なミーティングを告げるだけの機能ではなく、ダイバーの安全を確保するためのものでした。



メモボックス・ポラリス

ジャガー・ルクルト製キャリバー825 を搭載したメモボックス・ポラリスは、わずか 6 年の開発期間で日の目を見ます。このメモボックス・ポラリスのコンセプトは 1962 年に誕生し、当時深海の探索だけでなく、宇宙や極地など、あらゆる方面での探索に世界が熱中していました。

そして、1963 年に 50 本の先行モデルが登場します。新作ケースには当時では大型となる 42mm の直径が採用され、時刻が読み取り易くなりました。

また、アラームにもう 1 つ重大な進化がもたらされています。メモボックス・ポラリスの開発者たちは、水中でも大きなアラーム音を発することのできる機構の発明に力を注ぎ、ダイバーが着用するウェットスーツとの接触でアラーム音がこもらないようにトリプルケースバックが開発されました。1 つ目はアラームを共鳴させるブロンズ製ケースバックに、2 つ目は水の侵入を防いで機構を守る防水用ケースバックを、そして 3 つ目のケースバックには、16 個の開口部が設けられており、水中でもアラーム音が適切に聞き取れるようになっています。

このメモボックスは、200m 防水機能と衝撃および磁気耐性を兼ね備えています。さらに、3 つ目のリューズで操作を行う回転式ベゼルが、一般的な外側ではなく内側に搭載されています。

1968 年、ジャガー・ルクルトはこのシリーズ向けに、よりスポーティーな外観の新しいダイヤルを設計しました。ダイヤルの数字の位置が一新され、台形型のデザインに変わったインデックスと同様に、夜光塗料トリチウム®でのコーティングが施されました。小さな三角形はアラームの時刻を示し、長針と短針には夜光塗料を施したバトン針が採用されています。

そして 50 年後の 2018 年、このデザインはジャガー・ルクルトの時計職人にインスピレーションを与え、新たなコレクションとしてジャガー・ルクルト ポラリスが誕生しました。

メモボックス・ポラリス II

1971 年には先代ポラリスの進化モデルが発表されます。メモボックス・ポラリス II と名付けられ、あらゆる最先端技術が盛り込まれました。搭載されたキャリバー916 は、ジャガー・ルクルトが 1970 年から開発に着手した高振動自動巻ムーブメントの世代に属しています。そして 28,800 振動/時のテンプを搭載した腕時計は、かつてない精度を実現しています。採用された巻き上げ機構も革新的で、ローターが軸を中心として両方向に回転して香箱を巻き上げます。このキャリバーの機能性は非常に優れているため、マスター・コンプレッサー・メモボックスに搭載されている現在のキャリバー956 のインスピレーションの根源となっています。

マスター・コントロール・メモボックス / マスター・グランド・メモボックス

1998 年、マスター・コントロール・メモボックスが発表されます。キャリバー914 を搭載したこの時計は、1000 時間コントロールテストによって証明された機能性と信頼性を兼ね備えています。そしてその 2 年後、永久カレンダーやムーンフェーズ表示、従来のメモボックスモデルの共鳴用ケースバックに取って代わる、ゴングを搭載したマスター・グランド・メモボックス・キャリバー909-440/2 が誕生します。



マスター・コンプレッサー・メモボックス

2002 年は、メモボックス・ムーブメントのサクセスストーリーを築き上げたマスター・コンプレッサー・メモボックスの誕生が印象的な年となります。

メモボックス・トリビュート・トゥ・ポラリス

メモボックス・ポラリスの軌跡に敬意を表し、2008 年、ジャガー・ルクルトはメモボックス・トリビュート・トゥ・ポラリスの 2 つの限定モデル《1965》と《1968》を発表しました。

このメモボックス・トリビュート・トゥ・ポラリスの 2 つのモデルは、前身モデルのエスプリと美を忠実に継承しながら、精度や耐久性、信頼性に関する現代の基準を満たすために、ジャガー・ルクルト独自の最先端の技術革新も応用されています。ジャガー・ルクルト製キャリバー956 は、ケースの底にゴングを収納してアラーム機構を搭載しています。また、ローターにはセラミック製ボールベアリングが用いられており、注油もメンテナンスも必要としません。

ケースには、共鳴ケースの役割を持つ防水用ケースバックに加え、ケースバックに設けられた 16 個の丸い開口部が、このモデル特有の美を継承しています。

マスター・メモボックス・トリビュート・トゥ・ディープシー

1959 年、ジャガー・ルクルトは、アラームを搭載した初のダイバーズウォッチで、ヨーロッパおよびアメリカのダイバー向けの 2 つのモデルを揃えたメモボックス・ディープシーを発表しました。そして 2011 年には限定モデルの復刻版を発表し、この歴史に残るモデルにオマージュを捧げています。オリジナルモデル同様、ヨーロッパバージョンとアメリカバージョンが発売され、これらの時計には直径 40.5mm のステンレススチール製ケースに自動巻メモボックスキャリバー956 が搭載されています。959 本限定のヨーロッパバージョンは視線を引き付けるブラックダイヤルが採用され、一方で 359 本限定のアメリカバージョンには、“LeCoultre“の文字が刻まれたブラック&グレーダイヤルが採用されています。

マスター・メモボックス・ブティック・エディション

2016 年、ジャガー・ルクルトはアラーム機能を搭載した自動巻時計の 60 周年を祝して、ブティック限定の特別モデルを発表しました。1970 年代のメモボックス《スノードロップ》モデルから着想を得た、ヴィンテージデザインをまとうブルーカラーのこの時計は、極めて現代的なケースと装飾の奥に、ジャガー・ルクルト製キャリバー956 を搭載しています。

ジャガー・ルクルト ポラリス・メモボックス

2018 年、ジャガー・ルクルトは、1968 年製メモボックス・ポラリスのデザインからヒントを得て誕生した、ジャガー・ルクルト ポラリスシリーズの新モデルを発表いたします。



コレクションに新たに加わったジャガー・ルクルト ポラリス・メモボックスには、オリジナルモデルの外観とアラーム機能が採用され、新しくデザインされたケースが用いられています。1968年製モデルの50周年を記念した1,000本限定のこのタイムピースは、歴史ある特別な時計をお求めの愛好家にもご満足いただけることでしょう。

1950年から今日に至るまで、これほど長きに渡り、信頼性を保ち続け度重なる改良が施されてきたムーブメントはほんのわずかしかなかった。2018年、誕生から60年以上が経過した現在もなお、メモボックスは高らかに時を刻み続けています。

マニュファクチュール ジャガー・ルクルト

1833年にスイスのジュウ渓谷で創業以来、マニュファクチュールとして、キャリバーからケースに至るまで、それぞれの作品のデザイン、製作、組立てまで、すべての工程を、当社の時計職人たちが行っております。作業には創造力、専心、決意、勇気を要します。時間と手間を惜しまず、未来に生きるタイムピースの姿を見据えること。それが巧の技の神髄です。

www.jaeger-lecoultre.com